発 刊 に 当 た っ て

１　北信地域の農業

北信地域は、長野県の最北端に位置し、２市１町３村で構成されており、多くの市町村が豪雪地域に指定されています。この地域の農業は、きびしい自然環境のなかで、農業者と関係者の知恵と工夫により、地域の特徴を活かした先取的な農業が展開されており、水稲、果樹、きのこ類等は、長野県に留まらず全国をリードする産地となっています。

また、今年開業100周年を迎えた野沢温泉スキー場や志賀高原など全国屈指のスキー場や、豊富な湯量の温泉を始めとする自然豊かな観光資源に加え、北陸新幹線などの高速交通網も整備されており観光と連携した農業振興にも取り組んでいます。

本年度の農業生産を振り返りますと、暖冬から一転して４月は低温傾向となり､数回にわたる凍霜害の発生により、果樹類を中心に県下で22億８千万円、北信管内では２億８千万円という大きな被害がありました。また、６月の大雨や７月以降の高温少雨など、台風による大きな被害こそありませんでしたが、天候不順に悩まされた一年となりました。また、ここ数年猛威を振るった新型コロナウイルス感染症が昨年５月に５類感染症となり、さまざまな社会活動がコロナ禍以前の状況に戻るとともに、生活様式の変化により通販やネット販売が増加するなど消費動向も変化しつつあります。

そのほか、特定家畜伝染病等の拡大や国際情勢の変化による燃油･資材･肥料･家畜飼料の高止まり、物流2024問題など、農業を取り巻く環境が一段と厳しくなる状況となっています。

このような中、農業農村支援センターの普及活動を展開するにあたり、地域農業や中山間地域が抱える課題を的確に把握し、迅速かつ効果的な普及活動に取組んでまいりました。

２　令和５年度の取組

第４期長野県食と農業農村振興計画と普及活動基本計画の初年度となった本年度は、「未来につなげ！人と地域が織りなす　北信州の食と農」を基本目標として５つの重点推進方策を設定し、農業者や関係機関等と連携・役割分担しながら活動を展開してきました。

特に重要かつ緊急的な課題を重点活動課題として位置づけ、所内プロジェクトチームにより課題解決に取組みました。

(1) 重点活動課題

「課題名：シャインマスカットの好適樹相への誘導と省力化による生産安定」

年々栽培面積が増加しているシャインマスカットの生産安定に資するため、取組の３年目となる今年度は、適正樹相診断指標の作成と新梢管理の省力化技術の検討、新規栽培者の技術向上ための管理作業動画マニュアルの作成等の取組みを進め、一定の成果を上げることができました。

⑵ 一般活動

各作目の生産振興や、市町村の地域振興に係る課題などについて、基本計画の５つの重点推進方策を柱に普及活動を展開しました。

本年度は、新型コロナウイルス感染症が落ち着いたことから、対面や集合での普及活動もほぼフルバージョンでの実施となり、北信州農業道場の各講座を始め、現地活動も充実した内容で実施できました。

また、調査研究活動の６課題や現地実証ほ・試験ほ等については計画どおり取組むことができました。

３　結びに

国際情勢の変化による燃油･資材･飼肥料の高止まりや温暖化による気候変動、生産活動に係る環境負荷の増大、人口減少問題などが地域農業に及ぼす影響が大きくなっており、普及活動もその変化に対応することが求められています。

ここに令和５年度の普及活動を振り返り、その成果を「普及活動実績集」として取りまとめました。

御一読いただき、農業農村支援センターの普及活動への御理解を深めていただければ幸いです。

結びに、本年度の普及活動に御支援・御協力をいただいた関係機関・団体、農業者の皆様に深謝申し上げ、発刊に当たってのあいさつとさせていただきます。

令和６年３月

長野県北信農業農村支援センター
所長　松木　賢司

目　　次

第１　普及活動の成果

１　重点活動課題

シャインマスカットの好適樹相への誘導と省力化による生産安定 ---------- 1

２　普及活動課題

［重点取組１：人材確保と皆が憧れる経営体の育成］

１　中核的経営体の育成

（1）経営感覚に優れた農業者の育成 ---------- 3

（2）リーダー的農業者の組織活動の展開 ---------- 3

（3）家族経営協定の推進 ---------- 5

２　農業道場等による新規就農者の確保と担い手の育成

（1）新規就農者の確保育成 ---------- 6

（2）「北信州農業道場」による自立した農業者の育成 ---------- ５、７

（3）地域農業の担い手育成 ---------- 12

３　女性農業者の育成と地域リーダーの育成

（1）農業と生活の地域・技術の習得 ---------- 13

（2）社会参画の推進 ---------- 16

４　中核的経営体の経営発展

（1）営農組織の育成と経営安定 ---------- 18

（2）カイゼン手法の導入による労働生産性の向上 ---------- 15

５　多様な労力の安定的確保

（1）農外就業者による果樹等の管理支援の仕組みづくり ---------- 19

（2）福祉との連携による野菜等の安定生産---------- 19

［重点取組２：持続可能な農業の取組とデジタル技術等の活用］

１　ＧＡＰ手法による安全・安心への取組の強化

（1）安全安心なきのこ栽培の推進 ---------- 20

（2）ＧＡＰへの取組推進 ---------- 20

２　環境にやさしい農業など持続可能な農業の取組の推進

（1）化学肥料・化学合成農薬使用の低減を進める認証制度の普及推進 ------- 21

（2）病害虫発生予察による適期防除の推進 ---------- 21

（3）環境負荷を低減する技術の取組推進 ---------- 22

３　農業の DX 化の推進

（1）スマート農業技術の普及拡大 ---------- 23

４　農作業安全の推進

（1）関係機関及び団体と連携した農作業安全の啓発及び推進 ---------- 24

（2）農作業安全啓発活動 ---------- 24

［重点取組３：実需者ニーズに対応した北信農畜産物の生産強化］

１　良食味米や業務用米・酒米など需要に応じた米生産の推進

（1）高品質枚の生産安定とブランド化 ---------- 25

（2）低コスト省力栽培技術の推進 ---------- 25

２　高品質で収益永が高い果樹経営の推進

（1）りんごの安定供給に向けた産地の維持 ---------- 26

（2）需要に応じたぶどう生産による産地強化 ---------- 26

（3）核果類の安定生産 ---------- 27

３　アスパラガス産地の再構築と果菜類の生産振興
（1）野菜の品質向上と生産振興 ---------- 28
（2）ぼたんこしょう等の特色ある伝統野菜の生産振興 ---------- 29
（3）白ネギの産地育成（中山間地農業ルネッサンス推進事業）---------- 31
４　シャクヤク産地の維持・強化と露地花き品目の生産振興
（1）主要花き品目の生産拡大 ---------- 32
（2）特色ある花き品目の導入推進と生産支援 ---------- 32
５　畜産物地域ブランドの向上
（1）飼養管理技術の向上と経営の安定対策推進 ---------- 33
（2）飼料価格高騰に対応した自給飼料生産 ---------- 33
（3）安全・安心・環境に配慮した畜産の推進 ---------- 33

［重点取組４：農的つながり人口の創出・拡大による農村づくり］
１　農地の利用集積による規模拡大の促進
（1）地域計画（人・農地プラン）の推進 ---------- 34
（2）荒廃農地の発生防止と活用促進 ---------- 27
２　野生鳥獣対策の推進
（1）野生鳥獣被害ほ場における対策の推進---------- 35
３　農業資産・農村資源の活用とＰＲ
（1）観光的要素を組み入れた農業・農村のＰＲ・交流の促進 ---------- 36
（2）農ある暮らしへの支援 ---------- 36

［重点取組６：食の地産地消の推進と次代への伝承］
１　農畜産物の魅力を活かした、地産地消・食育の促進
（1）各種イベントを通じた農畜産物のＰＲ、認知度向上、地域内利用促進 --- 37
２　マーケティング力の強化による付加価値の向上
（1）実需者と農業者のマッチングによる販路拡大 ---------- 38
（2）２次、３次事業者と連携した商品力・販売力強化 ---------- 38

第２　調査研究活動の成果
１　水稲「コシヒカリ」の移植時期と施肥による品質・収量への効果確認 ---- 39
２　ぶどう「シャインマスカット」の新梢管理省力化のための
　　フラスター液剤散布の検討 ---------- 41
３　信州の伝統野菜「ししこしょう」の早期定植による増収効果の検討 ------ 43
４　ジュース用トマトのマルチ麦を活用したグリーンな栽培体系の検討 ------ 45
５　シャクヤクの露地栽培における収穫期の分散に向けた早期被覆の検討 ---- 47
６　お盆用コギク及び彼岸向けアスターの赤色 LED を用いた開花調節技術の検討 49

第３　参考資料
１　気象グラフ ---------- 51
２　気象状況と災害 ---------- 52
３　農作物の生育概況と作柄 ---------- 54
４　支援センターが選ぶ今年度の主な出来事 ---------- 58
５　管内統計資料 ---------- 60
６　職員体制と業務分担 ---------- 62

好適樹相への誘導による品質・収量の向上

■活動の背景と目的

「シャインマスカット」は全国的に知名度も高く単価も好調であることから、管内でも栽培面積が増加しており、令和４年で 290 ha とぶどう全体の約 54%を占めている。一方で、樹勢などが要因と考えられる生理障害により、減収や品質低下が課題となっており、好適な樹勢への誘導が求められる。

そこで、開花期頃の葉色や新梢基部径から樹相を判断できる北信地域版の「樹相診断指標」を作成し、適正樹相への誘導を図るとともに、生理障害の発生状況を把握し、その軽減技術について検討する。

■活動の取組と成果

１　好適樹相への誘導

令和３年度から継続調査している管内の「シャインマスカット」好適樹相園（６ほ場）において、開花期の樹体や収穫期の果実品質を調査し、開花期の新梢基部径及び葉色から判断する「北信版樹相診断指標」（表１）を策定した。なお、葉色の判定については、印刷等による色のブレ等を考慮し、既存の水稲用葉色カラースケール（図１）を活用することとした。

表１　北信版シャインマスカット樹相診断指標
調査時期：満開期

展葉５枚目の葉色	５～６（水稲 c.c.）
新梢基部径 （４～５節の最大径）	７～９mm

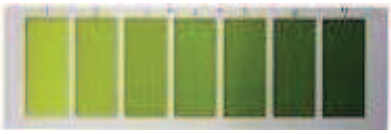

図１　水稲用葉色カラースケール

また、上記６ほ場について、土壌中の可給態窒素測定や聞き取りによる肥培管理調査を実施し、施肥事例集を作成した。

さらに、２月に調査園主や JA 技術員と座談会を行い、新たに策定した指標の妥当性の確認とともに、指標及び作成した事例集の管内での活用について了承いただいた。

２　生理障害対策技術の実証

「シャインマスカット」の生理障害の中でも、特に課題となっている未開花症対策として、一部の農家が試行している「４芽せん定」による発生軽減効果を確認した。なお、未開花症が発生すると、奇形果粒の混入による品質低下や減収の可能性がある。

試験の結果、試験区では慣行区に比べて未開花症の発生程度が軽くなり、生産への影響が小さくなると考えられた。

左：健全房　右：花穂異常症発生房

■今後の課題と対応

今回新たに定めた樹相診断指標の活用により、管内の「シャインマスカット」の樹勢を把握するとともに、施肥事例集を参考に、好適樹相への誘導を図りたい。

また、生理障害については、引き続き JA と連携し、管内の発生状況を把握するとともに、軽減対策について検討していく。

シャインマスカットの省力化技術の確立

■活動の背景と目的

農家１戸当たりのぶどうの栽培面積の増加により、６～７月に作業が集中し、適期に管理が実施できない事例も見受けられる。

特に、種無しぶどうにおける新梢管理は果実の肥大や成熟を促す重要な作業であるが、余計な粒を摘み取る摘粒作業などが優先され、新梢管理が遅れる場合が多い。

そこで、令和３年度に実施した新梢管理の省力化試験において、最も有望とされたフラスター液剤の散布について、同一樹における散布有無での省力効果を再検討した。なお、フラスター液剤は「シャインマスカット」の新梢伸長抑制に対して、新梢展開葉７～11 枚時（開花始期まで）の散布、及び満開 10～20 日後の散布がそれぞれ農薬登録されており、今回は満開後の散布を検討した。

■活動の取組と成果

フラスター液剤の散布方法は表２のとおり設定した。なお、両区において開花前のフラスター液剤の散布はしていない。

表２　フラスター液剤の散布概要

試験区	満開 10 日後に 500 倍(150ℓ/10a 相当)を背負い式動噴器で散布
対照区	散布無し

新梢管理を７月６日、10 日、18 日、27 日、８月７日に行い、各区 10 ㎡あたりの作業時間、切除した新梢の長さを調査した。また、９月 14 日に各区 10 房について果実品質を調査した。その結果、新梢管理時間（10a あたり通算、換算値）は試験区で 10.5 時間と、対照区の 19.6 時間に比べ短くなり、果実品質は試験区で対照区に比べ１粒重が大きくなった。（詳細は調査研究実績書参照）

■今後の課題と対応

今回は、手散布での効果を確認したが、現場では SS 散布が主流である。今後は、SS 散布による新梢管理の省力程度を検討し、より使いやすい方法を提案することで、新梢管理を適期に実施できるよう支援したい。

人材育成による生産体制の改善

■活動の背景と目的

当センターでは、新規栽培者向けの講習会（北信州農業道場）を開催しているが、講習会の内容を１度で理解することが難しい、講師の目線で作業が見られない等が課題となっている。また、農家が作業者を雇用する場合、その都度作業を教える時間がかかるという課題もある。

そこで、ぶどう栽培における５つの管理作業（芽かき、誘引、房切、摘粒、袋掛け）の動画を作成し、時間や場所を選ばず、繰り返し作業を学べるようにすることで、新規栽培者等の早期技術習得を図る。

■活動の取組と成果

１　熟練者と新規栽培者の管理作業上の違いの比較検討

管理作業熟練者のぶどうの摘粒作業を撮影・編集し、作業初心者でも果粒の肥大経過や作業のポイントが理解しやすい栽培管理モデル動画を作成した。この動画を作業初心者を対象とした摘粒講習会で試写したところ、受講者から「写真付きで説明されていてわかりやすい」といった声が聞かれた。

２　動画マニュアルの活用による新規栽培者の技術習得支援

令和４年度に作成したぶどうの「芽かき」、「誘引」、「房切」、「摘粒」、「袋掛け」の５つの作業動画マニュアルについて、JA 中野市ぶどう部会に監修を依頼した。農家の視点で内容を確認いただき、「わかりやすくまとまっている」「勉強になった」などの意見をいただいた。これらの動画は、北信州農業道場の講座で活用するとともに、当センターの YouTube チャンネルでも公開し、受講生が自由に視聴できるようにした。公開した動画に対するアンケートでは、「作業理由が確認できた」「ほ場での作業時に見れる」といった感想が寄せられた。

■今後の課題と対応

次年度は、作成した計７動画を北信州農業道場開講当初の４月から YouTube アカウントで公開し、視聴を促すことで、新規栽培者等が早期に技術習得できるよう支援したい。

（技術経営係　石合・地域係　棚橋）

［重点取組１：人材確保と皆が憧れる経営体の育成］
１　中核的経営体の育成

経営感覚に優れた農業者の育成

■活動の背景と目的

北信地域の多様な自然環境や地域の資源を活用し、経営戦略を持って農業を支える認定農業者、認定新規就農者、集落営農組織及び企業的経営体を含めた中核的経営体の育成を行った。令和５年度は1,220経営体の育成を目指し、認定農業者、認定新規就農者の申請・更新支援を行った。

また、農業簿記能力の確認と向上のために農業簿記講座を開催した。

■活動の取組と成果

１　中核的経営体の育成

令和４年度末は1,213経営体で、今年度も認定農業者、認定新規就農者の申請支援を行ったが、更新者の高齢化に伴う減少があり目標の1,301経営体には届かなかった。

２　農業簿記能力の向上

１月５日から２月１日までの全５回、北信州農業道場の農業簿記講座を開講し29人が受講した。複式簿記の基礎知識や日々の仕訳までを演習問題を解きながら理解を深めることができた。引き続き決算仕訳、決算書の作成、パソコン簿記の演習を行い簿記記帳作業の効率化や使用方法について理解を深めた。あわせて、経営分析手法、青色申告控除の税務申告についての情報提供も行った。

■今後の課題と対応

引き続き中核的経営体の育成をJA、市町村と連携して行う。

北信州農業道場の農業簿記受講者も多いことから、できるだけ多くの方が受講しやすい時期に開催し、農業簿記能力の確認と経営成績の把握による農業経営の発展に寄与する。

またあわせて、経営体の強化に向けた法人化等も支援対応していきたい。

（技術経営係　穂谷）

リーダー的農業者の組織活動の展開（農業士協会　下高井支部）

■活動の背景と目的

農業士協会下高井支部は中野市、山ノ内町在住の会員11人で構成され、水稲、果樹、花き、畜産と多彩な農業経営を行っている。

■活動の取組と成果

１　ChatGPT活用セミナーの開催（８月）

農業経営の発展、効率化に向けて、近年話題の『ChatGPT（生成型AI)』のセミナーを開催した。専門講師を招きChatGPTとは何か、実際の活用事例等を紹介いただき、会員の資質向上を図った。

２　支部独自視察研修会の開催（10月、11月）

スマート農業技術や農業関係資材、６次産業化に関する最新の機械･技術等の展覧会に参加した。また、従業員とのコミュニケーションの取り方や農場運営に関して、県内の優良農家を視察し、概念等を勉強した。

県外視察の様子（農業WEEK　in幕張メッセ）

３　これからの長野県農業を考える会の発表支援

１月に開催されたこれからの長野県農業を考える会にて、農業士を代表して当支部県協理事より「中山間地域において、長期的に農業経営を行うためには」というテーマで提案が行われた。

■今後の課題と対応

役員会・定例会を適宜開催し、活発な意見交換を行い、支部活動や他団体との交流等についての検討を進める。

新規会員の確保に向け、農業士への勧誘を継続するとともに、各種研修会の開催等、会員のスキルアップを図っていく。

（技術経営係　雲崎）

リーダー的農業者の組織活動の展開（農業士協会　下水内支部）

■活動の背景と目的

農業士協会下水内支部は、中野市（１人）、木島平村（１人）の会員２人で水稲、果樹の経営者で構成されている。

■活動の取組と成果

８月４日に農業士協会北信ブロック（３支部）研修会を開催し、支部の前支部長、現支部長のほ場で経営法について、お話をいただいた。本研修には８名の会員が参加した。

竹内　昭芳　前支部長

竹内氏から、「農地はどんどん集まってくる。朝早くから夜遅くまでの作業となっている。従業員は、自分の予定で作業を決めることができるようにしている」という説明があった。参加者からは、竹内氏だからできる事だという感想が得られた。

坂本氏から、「今後もう一人の経営者と２名で果

坂本　哲也　支部長

樹園を運営していきたい。農地（果樹園）が放置されていくことが十分考えられ、農地を集約し現在よりほ場条件の良い所での共同栽培を考えている」という話をされた。参加者からは、整然と整備された果樹園に感嘆の声が漏れていた。

■今後の課題と対応

積極的な新規会員の掘起こしを進め可能な限り従前と同様の支部活動ができるような組織づくりに取組む。　（地域係　松盛）

リーダー的農業者の組織活動の展開（農業経営者協会 飯水支部）

■活動の背景と目的

農業経営者協会飯水支部は、中野市（豊田）、飯山市、木島平村、野沢温泉村在住の 16 人で構成され、地域農業・農村の先導的役割を果たすとともに、会員相互の連携、経営向上を目指し活動している。

■活動の取組と成果

１　社会福祉協議会への農産物の提供

支部独自の新たな取組として、飯山市と木島平村の社会福祉協議会に会員が生産した農産物の無償提供を行った。会員 11 名から提供のあった農産物を 12 月 13 日に提供した。

社会福祉協議会に農産物提供

２　地元県議との情報交換会

12 月 20 日に、地元県議会議員２人の出席により下高井支部と共催で情報交換会を共催した。今後の農業への課題やスマート農業、気象対応など建設的な意見交換が行われた。

３　下高井農林高校との連携

11 月 28 日に下高井農林高校の取組状況や支部と連携した活動に向けた意見交換会を藤田校長、本田教頭ほか計７人の先生と行った。

また、５月 23～24 日に２年生 17 名、９月 25～27 日に１年生 24 名の「農家体験研修」を会員が受け入れた。

■今後の課題と対応

来年度は新規会員２名の加入予定である。今年度末の退会者も２名であった。より一層の活動の活発化を図る予定である。

（徳永）

家族経営協定の推進

■活動の背景と目的

家族経営協定は、女性のやりがいや社会参画を目的に推進してきたが、近年、事業申請等要件の一つとして締結されるケースが目立っている。このため、各種研修会、農業委員会等農業者が集まる場において協定の目的や締結後の活用について啓発を行った。

■活動の取組と成果

１　締結の状況

	R4 累計	R5 締結	R5 累計
中 野 市	259	13	272
飯 山 市	140	1	141
山ノ内町	58	4	62
木島平村	20	1	21
野沢温泉村	9	0	9
栄　　村	7	0	7
合　　計	493	19	512

中野市は、親元就農者や新規就農者の数も多いことから補助申請がらみの新規締結が多かった。

２　新規締結に向けた啓発

４月、12 月開催の「北信州農業道場講座、交流会」、８月開催の「新規就農者激励会」、２月開催の「農業経営勉強会」の中で家族経営協定について啓発を行った。

農業経営勉強会での説明

■今後の課題と対応

協定締結後の活用が進まない現状があるため、締結にあたり、後継者等の経営参画、農作業の役割分担を柱に今後の経営計画について、家族内で共有することを目的に推進していきたい。

（技術経営係　穂谷）

「北信州農業道場」による自律した青年農業者の育成

［エノキタケ栽培講座の開催］

■活動の背景と目的

北信地域のきのこは農産物産出額の６割を占める基幹品目である。近年の市場価格の低迷や昨今の世界情勢に伴い、培地等資材と光熱費の高騰が経営を圧迫している。県は培地資材価格高騰緊急対策事業の実施により支援チームを設置した。北信地域では、北信州農業道場の特別講座として「エノキタケ栽培講座」を開催し、後継者や従業員の栽培技術の向上を図ることで、経営安定のための支援に取組んだ。

■活動の取組と成果

５月 10 日（水）に各 JA きのこ技術担当者、専門技術員、支援センター職員で講座の打ち合わせ会議を開催し、講座の内容や募集方法を検討した。

「エノキタケ栽培講座」の概要

７月５日（水）午後２時から北信合庁講堂

講師：県農業技術課　風間専門技術員

内容：きのこ栽培の現状、エノキタケ栽培のポイント、エノキタケ病害虫対策の基礎

当日は、法人等 12 経営体から 20 名の参加があり、当日の資料を提供してほしいという要望もあり、大変好評だった。前澤道場長からは、価格低迷の中、トラブルによる品質低下は命取りと注意喚起をいただいた。

エノキタケ栽培講座

■今後の課題と対応

きのこの販売価格は、回復したものの、培地等資材価格、光熱費の高騰は依然として続いている。

きのこ経営の安定化を図るため、次年度も JA 等関係者と連携し、きのこ栽培講座を開催したい。

（技術経営係　小林）

新規就農者の確保育成

■活動の背景と目的

農業者の高齢化や担い手不足が進み担い手の確保が課題となっている。本年度は31人の新規就農者の確保を目標に(県下の目標は215人)、地域に新しい風を呼び込み地域の活性化を図るためにも、新規参入就農希望者を中心とした新規就農者の確保育成に取組んだ。

■活動の取組と成果

１　新たに農業を始めてみようと考えている人のための意見交換会の開催

北信地域へのＩターン等による新規参入就農を考えている人に対し、当地域での就農前後の状況をイメージしやすくするため、移住するなどして既に農業を始めている農業者との意見交換会を11月12日（日）及び1月17日（水）にオンライン併用で開催した。

東京都、千葉県、新潟県、島根県及び長野県から計11名が参加し、当地域に移住し新規参入で農業を始めた農業者から体験談を聞き意見交換を行った。雪の生活や農業収入の状況、遭遇したトラブル、予想に反した出来事等を交えた実際の体験談を聞いて、質問なども盛んに出され反応はよかった。

２　就農相談の実施

就農コーディネーター、市町村担当普及員、市町村就農促進担当者が連携して就農相談を受けた。１月末現在の就農相談は37名であった。

○市町村・JA合同就農相談会（７月１日、東京都）への参加

中野市・JA中野市、山ノ内町と参加し、相談者は７名（来場者は53名・組）であった。

農業で食べていくという決意の人は少なく、子育て支援等、農業以外のことを聞かれることが多かったため、対応できない場面があった。

また、漠然とした模索の人が多く、具体的に本格的な就農を考えている人は少ない。

○オンライン就農相談会の開催

５～10 月に毎月１回日曜日にオンライン就農相談会を設定した。相談者は５月、６月、８月に各１名（東御市、千葉県、愛知県）の計３名であった。

○個別就農相談の実施

単独個別相談者は19名、市町村（中野市、山ノ内町、木島平村）との合同相談は８名、計27名の就農相談を実施し、内２名は来年度から里親研修を実施することになった。移住について市町村の移住担当部署と空き家を見て回ることも行った。

３　新規就農里親研修の実施

新規参入独立自営就農を目指し、中野市内で里親研修を実施している２組（２年目１組(果樹)、１年目１組(果樹)）に対し、市町村、JA、農業委員会と一丸となって就農に向けた支援を行った。

４　新規就農者激励会の開催

○新規就農者の把握

市町村、JA等関係機関の協力を得て、新規就農者把握のための調査を実施した。

令和５年度の 49 歳以下の新規就農者は、就農地別で中野市13名、飯山市１名、山ノ内町12名、木島平村２名、栄村１名の計29名（親元就農18名、新規参入11名）であった。

中心となる経営品目別では、果樹22名、水稲３名、野菜２名、菌茸１名、その他１名であった。

○新規就農者激励会の開催

８月９日に新規就農者11名、先輩農業者10名及び市町村、JA等関係者24名の計45名出席のもと、新規就農者激励会を開催した。この後、販路開拓研修会、交流会を開催し、早速青年農業者組織に加入する者が現れるなど、総勢 51 名で有意義な交流ができた。

■今後の課題と対応

新規就農者激励会

地域で勧めている品目、地域の農業生産の実態や魅力を、参入就農検討者がいつでも見ることができる方法を検討する必要がある。

また、就農相談の流れについて、簡単なフロー図のようなものを作成し、市町村及び JA と共有

「北信州農業道場」による自律した青年農業者の育成

することを要望されている。　（地域係　石川）

［品目別講座の実施］

■活動の背景と目的

新規就農者を対象とし、栽培基礎知識・技術の早期習得、経営の安定化を図ることを目的に北信州農業道場の品目別コース（果樹コース、野菜・花きコース）を開講した。

なお、講座を３分の２以上受講した者には修了証を交付した。

［果樹コースの実施］

■活動の取組と成果

果樹コース受講生 23 人（修了生 15 人）

今年度は、りんご栽培をメインとし、基礎知識・技術習得支援を目的にりんご講座を６回、ぶどう講座を２回の計８回開催した。

講師

・JA 中野市　清水技術員

・農業農村支援センター

穂谷主任普及指導員、石合主任普及指導員、棚橋技師

回	期日	出席者	テーマ/研修内容	場所
1	4/12	18	年間管理、病害虫防除	飯山庁舎
2	4/25	20	農作業安全、農薬適正使用、カイゼン	合庁
3	5/25	16	りんごの摘花、摘果	現地
4	8/30	12	果樹試験場視察	試験場
5	10/6	10	りんごの着色管理、土づくり	現地
6	12/15	14	整枝せん定、無煙炭化器紹介	現地
7	6/2	16	ぶどうの芽かき、房切り、新梢管理、無核化処理	現地
8	6/22	15	摘粒、袋掛け	現地

１　りんご講座

凍霜害の発生があったため、凍霜害時の各種栽培管理について現地講習会を行った。また、果樹試験場の視察では、高温対策等について受講生から積極的に質問が出されており、学びを深めていた。

２　ぶどう講座

現地で作業を説明している様子

房切りや摘粒作業について現地で説明を行った。

また、実技の補足として栽培管理作業の動画を講座内で放映した。その後、当センターYouTube アカウントで動画を公開し、栽培技術の早期習得を促進した。

３　土壌分析

動画を視聴している様子

受講生（希望者）６人のほ場の土壌について、土壌分析を実施した。診断の結果、リン酸とカリが過剰気味であった。結果に基づき、適正な施肥管理の指導を行った。

■今後の課題と対応

講座内容に満足している反面、基礎の基礎から学びたいという声も聞かれた。引き続き、受講生のレベルにあった講習ができるよう関係機関と連携し、主要品目の技術習得を支援する。

（地域係　棚橋）

［野菜・花きコースの実施］

■活動の取組と成果

野菜・花きコース受講生 14 人（修了生６人）

野菜（アスパラガス・きゅうり）と花きの基礎知識・技術習得支援を目的に、全７回の講座を開催した。

講師　農業農村支援センター　小林主任普及指導員
雲崎技師

回	期日	出席者	テーマ/研修内容	場所
1	4/12	10	アスパラガス・きゅうり・しゃくやくの年間スケジュール、春先の管理　＊	合庁
2	4/25	10	農作業安全、農薬適正使用、カイゼン　＊	合庁
3	5/23	8	アスパラガスの立茎 しゃくやくほ場見学	現地
4	6/27	10	病害虫総論	合庁
5	7/18	6	きゅうり現地視察 花き現地視察（中野）	現地
6	9/14	5	アスパラガス現地視察 花き現地視察（飯山）	現地
7	11/15	8	土づくり 地域で栽培されている花紹介	合庁

＊　果樹コースと共通

１　講座の内容

アスパラガスときゅうりは技術習得を、花きは品目の紹介をメインに、現地での講座や視察を中心に講座を開催した。また、第７回の土づくりの講座では、希望する参加者のほ場の土をもってきてもらい、土壌診断を実施した。

第３回　アスパラガスの立茎

第５回　きゅうり現地視察

野菜（アスパラガス・きゅうり）は、受講生のアスパラガスほ場視察や飯山市研修センターのきゅうりほ場視察等を行った。現地での講座は、用意した講座の内容以外にも質問が多く出た。また、花きは、JA にも協力いただき、しゃくやくの栽培や地域で栽培されている品目の紹介を行った。現地視察をメインにしたため、参加者からの関心も高かった。

第６回　花き（アスター）ほ場視察

■今後の課題と対応

今回は、野菜と花きコースとして、アスパラガスときゅうり、花きを一つの講座にしたため、視察メインの花きに対する受講生の反応が良かったが、若干物足りないという意見もあった。限られた回数の中で受講生が必要な技術を習得できるよう、今後も関係機関と連携し、支援していく。

（地域係　飯塚）

［選択講座の実施］

■活動の背景と目的

青年農業者や新規就農者を対象に、「鳥獣被害対策」「農業機械」「農業簿記」の計３講座を選択講座として開催し、それらの技術の習得を支援した。年度当初の申込者は鳥獣被害対策が 26 名、農業機械が 16 名、農業簿記が 29 名だった。

■活動の取組と成果

［鳥獣害対策］

回	日	出席者	テーマ/研修内容	場所
1	5/9	7	管内の野生鳥獣害の特徴とその対策について	合庁
2	7/21	2	電柵設置の実習(スイートコーンほ場)	現地

第１回講座では、北信地域でみられる獣種別の被害状況と、特に管内で被害額の多いハクビシン、カラス、ニホンジカの生態について座学を開催した。適切な対策がとれるよう、獣種を特定するための手法のほか、「くぐれんテグスちゃん」を活用した鳥獣被害防止方法を説明した。

第２回講座では、受講生のスイートコーン栽培ほ場にて電気柵の設置実習を行った。基本的な設置方法のほか、獣種ごとの電線の高さ設定について実習をとおして学んだ。

鳥獣被害対策　電気柵設置実習

［農業機械］

回	日	出席者	テーマ/研修内容	場所
1	5/18	7	農業機械の安全な取り扱いについて、VR 体験ゴーグルによる農作業事故体験	合庁
2	9/6	8	農業機械の適正使用、農業機械の展示紹介	合庁

第１回講座では農業機械士下高井支部の清水会長より、農業機械士の活動について説明を受け、大型機械の保守点検の重要性を学んだ。その後全農長野共済連から提供された機材を用いて、「VR ゴーグルによる農作業事故体験」を行った。受講生からは「トラクターの後方の視界もみられるのは VR ならではの体験で良かった」といった感想が得られた。また、終了後のアンケート調査では、農作業中にヒヤリハットを経験したことがあるかという設問に対して、受講生８名のうち５名が「ある」という回答だった。具体的には「刈払い機を使っていたら目元に石が飛んできた」「トラクターがトップギアに入って急発進し、横転しそうになった」といった事例があり、改めて農作業事故防止に向けた啓発活動が重要であると感じた。

VR ゴーグルによる農作業事故体験

第２回講座は秋の農作業安全月間および農業機械士主催トラクター行進と併せて開催した。この講座では(株)ミツワヤンマーの渡辺氏に農業機械の安全・適正使用について講演いただいた。あわせてトラクター、SS の展示を行い各メーカー担当者から特徴などを説明いただいた他、トラクターの転倒角度シミュレーターを使った転倒角度体験会を行った。参加者同士のヒヤリハットの情報交換が行われるなど、非常に好評だった。トラクター行進や転倒角度シミュレーターの様子は北信地域振興局のＸ(旧 Twitter)アカウントで発信するなど、当センターの活動の周知も行った。

転倒角度体験シミュレーター

［農業簿記］

回	日	出席者	テーマ/研修内容	場所
1	1/5	15	農業簿記の基礎知識	合庁
2	1/10	16	いろいろな仕訳	現地
3	1/18	17	いろいろな仕訳と決算処理	現地
4	1/26	15	決算処理	現地
5	2/1	15	パソコンを用いた決算処理	現地

第１回から４回までは座学および演習問題に取り組むことで仕訳の基礎から決算書の作成までを学んだ。講習中は随時当センター職員が巡回し、受講生の質疑に応えた。受講生の簿記習得レベルは様々であったが、個々に寄り添った対応ができた。

第５回では受講生にパソコンを持ち寄ってもらい、Excel データ「ユキモト Ver.1」を使用した簿記記帳の演習を行った。勘定科目や部門の設定、減価償却台帳の作成方法などを通して、青色申告に係る書類の整備の仕方を学んだ。

農業簿記　農業簿記の基礎知識

■今後の課題と対応

鳥獣被害対策講座について、第２回の講座は申込者 26 名に対して２名しか参加がなかった。繁忙期の講座の開催については、時間を前後させるなどして受講しやすい配慮が必要だった。また、農業機械講座内で開催した農作業安全に向けた啓発活動では、選択講座受講希望者に限定せず各品目コースの受講生に対しても講座開催の案内を送付し、より多くの人に啓発活動を行っていきたい。

次年度以降の農業簿記講座は、第５回講座でのパソコンを用いた決算処理の時に、パソコン設備の整った教室をレンタルするなど受講生全員分の機材を確保したうえで開催したい。

今後も関係機関と連携し、ニーズを把握しながら各講座受講生のより一層の理解の促進に向け取組んでいきたい。

（地域係　秋山）

［令和５年度北信州農業道場交流会］

■活動の背景と目的

北信州農業道場では青年農業者の課題解決に向けて、年度当初に対象者を選定、現状の中から個々の課題を明らかにし、その解決に向けて支援を行っている。

また、農業青年クラブでは毎年開催される「若人のつどい」等でプロジェクト発表、意見発表を行うための活動も行っている。

こうした青年農業者の活動を地域で発表する場及び北信地域の青年農業者と農業士、農業経営士、JA 青年部といった関係機関・団体の情報交換の場として「北信州農業道場交流会」を開催した。

■活動の取組と成果

１　北信州農業道場交流会の開催

(1)　趣旨

北信州地域の青年農業者と関係機関・団体等が一堂に会し、これからの農業の発展方向について情報交換を行うとともに、青年農業者の取組事例を共有し、今後の経営発展と地域農業・農村の振興、担い手育成につなげる。

(2)　主催

北信州農業道場推進協議会、北信農業農村支援センター、下高井農業青年の会ぽぷり、飯水農業青年クラブ協議会

(3)　日時、場所

令和５年 12 月 21 日（木）午後１時 30 分から
長野県北信合同庁舎　講堂

(4)　主な内容

・北信州農業道場修了証授与式
（野菜・花きコース、果樹コース　計 21 名）
・青年農業者等意見発表・プロジェクト発表

(5)　参加者　約 50 人

交流会でのプロジェクト発表

２　交流会の内容

(1)　北信州農業道場修了証授与

野菜・花きコース、果樹コースを受講した者のうち、７割程度出席した受講生に修了証を授与し、今後の活躍を期待した。

(2)　農業青年者等意見発表・プロジェクト発表

ア　意見発表①「私は北信州・木島平村キノコ屋就農して思うこと」

飯水農業青年クラブ協議会　山崎広樹氏

就農する前の理想と現実とのギャップから今後の課題と取組みについて発表した。

イ　意見発表②「親元就農３年目を終えて」

下高井農業青年の会ぽぷり　小玉治駒氏

就農するまでの経過や就農後の農業経営での役割や今後の取組みについて発表した。

ウ　課題解決発表①「シャインマスカットの支梗を使った省力房づくり」

下高井農業青年の会ぽぷり　荻原和博氏

房の整形作業の省力化試験を行った結果について発表した。省力化により果実品質が低下していないかも確認した内容を発表した。

エ　課題解決発表②　「シャクヤク栽培における凍霜害対策試験」

下高井農業青年の会ぽぷり　江原宏晃氏

シャクヤクの凍霜害対策で、トンネル被覆資材やローソクを使った試験を行い、凍霜害が軽減できるか試験を行った。その成果と今後の課題について発表された。

(2)　関係団体の活動発表

ア「おごっそフェア出店を振り返って」

飯水農業青年クラブ協議会　池田拓矢氏

イ「下高井農業青年の会ぽぷり　活動報告～金山マルシェ～」

下高井農業青年の会ぽぷり　荻原和博氏

(3)　情報提供

ア　今冬の天候予想

イ　サポート事業、家族経営協定について

■今後の課題と対応

今回は農業青年クラブ員の参加が多く、盛会であったが、懇親会は行えなかったため、参加者の交流機会が確保できなかった。今後は交流内容を充実させる取組みも考えたい。　（徳永）

地域農業の担い手育成
（下高井農業青年の会ぽぷり）

■活動の背景と目的

果樹・花き・きのこ生産者計23名からなる当会は、会員自らのスキルアップと中野市、山ノ内町の活性化を目標に活動している。当センターでは、それらの活動の支援を行った。

■活動の取組と成果

１　パンフレットづくりセミナー

５月 29 日に県よろず支援拠点の轟久志先生を講師に迎え、パンフレットのデザインを学ぶセミナーを開催した。自社商品の PR のため必要な情報を整理し、消費者の目を惹く術を学んだ。

２　金山マルシェ

毎年の恒例事業となっている名古屋市金山駅構内で開催される農産物直売イベントについて、本年は 10 月 10 日に開催した。会員７名（および旧会員１名）が参加し、ぶどうやりんごなどを直売したところ、過去最高の 180 万円近い売上高となった。終了後のアンケート調査では、「新しい品目や規格などお客様の反応を見られるので以降の経営に役立つ。他参加者の売り方も参考になる」「会員同士の交流も深まりいいマルシェになった」などの感想が得られた。

10 月 10 日　金山マルシェの様子

３　明日の長野県農業を担う若人のつどい

２月５日に開催された若人のつどいでは、当会会員がプロジェクト発表を行った。「『シャインマスカット』の支梗を使った省力房づくり」について発表したところ、最優秀賞を受賞し、R6 年度の関東ブロック大会へと進出した。

■今後の課題と対応

今年度の活動をとおして、中野市・山ノ内町の新規就農者４名が新規会員として当会に加入した。今後も会員同士の研鑽のため、様々な活動支援を続けたい。　（地域係　秋山）

地域農業の担い手育成
（飯水農業青年クラブ協議会）

■活動の背景と目的

会員 10 名の自発的な活動の促進及び、相互研鑽、農業意欲の醸成を図るため、販促会・勉強会等、各種活動の支援・後押しを行っている。

■活動の取組と成果

１　地元マルシェへの出店

10 月 14 日, 15 日 信州中野おごっそフェアへ会員７名で出店し、米、野菜、きのこの販売を行った。クラブとしては、初めての試みであったが、自身の育てた農産物を直接お客さんに販売する楽しみを実感する場となった。

おごっそフェアの様子

２　青年クラブ交流会

11 月 30 日　下高井農業青年の会ぽぷりとの交流会を開催した。クラブ毎に実施されたマルシェの報告と代表会員による販売事例の共有を行った。栽培品目が異なるクラブ員で工夫された販売方法を互いに知る機会となり相互研鑽が図られた。

交流会の様子

３　意見発表

12 月 21 日　北信州農業道場交流会、２月５日明日の長野県農業を担う若人のつどいにて、木島平村の山崎氏が意見発表が行った。「キノコ屋に就農して思うこと」と題し、営農に至るまでの経緯やなめこ栽培のこだわりについてお話いただき、新規就農者等が刺激を受ける場となった。

■今後の課題と対応

多様な変化に富む近年の農業情勢下、農業に対して、より魅力ややりがいを感じるよう活動がさらに促進されるよう後押しを図る。（地域係　土屋）

［重点取組１：人材確保と皆が憧れる経営体の育成］
３　女性農業者の育成と地域リーダーの育成

農業と生活の知識・技術の習得（農村生活マイスター　下高井支部）

■活動の背景と目的

農村生活マイスター下高井支部は、中野市・山ノ内町在住の会員 36 人で構成され、会員や支部間の交流を深めながら、農村生活の活性化に向けて活動している。

■活動の取組と成果

今年度は、支部全体の活動として郷土料理・地域食材を使った講習会を中心に計画し、活動した。

１　「第４期長野県食と農業農村振興計画」の女性活躍に関するアクションプラン推進事業

11 月８日に山ノ内町文化センターで、下水内支部との交流を兼ねた郷土料理講習会を開催した。中野市のおやきと山ノ内町のたけのこ汁を実際に調理し食べながら、同じ北信地域内でも材料や作り方に微妙な違いがあることなどを情報交換した。

11 月８日支部間交流会の様子

２　牛乳・乳製品利用料理講習会

令和元年に作成した簡単レシピの中からメニューを選び、火を使わずにできるおやつ作りを、１月 12 日北信合同庁舎で開催した。実際に子ども食堂で料理したメニューや、会員が持ち寄った果物を飾り切りしたパフェなど、簡単で凝った料理を作成した。

■今後の課題と対応

新型コロナウイルス感染症の影響であまりできていなかった市町それぞれの部会活動も、以前のような活発さが戻りつつある。新規会員を確保しながら、積極的な活動を行えるように今後も支援していく。　（地域係　飯塚）

農業と生活の知識・技術の習得（農村生活マイスター　下水内支部）

■活動の背景と目的

農村生活マイスター下水内支部は、飯山市、木島平村、野沢温泉村、栄村の会員 23 人で、地域農業の振興や会員内外の食育の推進を目的に活動している。

■活動の取組と成果

１　「第４期長野県食と農業農村振興計画」の女性活躍に関するアクションプラン推進事業

７月 30 日に、野沢温泉村会員のほ場にて、ジャガイモ掘り体験及び試食会を開催した。管内幼稚園児や近隣住民も参加した。初めてのイモ堀りを楽しんでいる様子で、いもなますを始めとした試食では幸せそうに味わっていた。

ジャガイモ堀り体験の様子

２　次代活性化事業

10 月 31 日に、いいづなコネクト WEST・EAST の視察研修を行った。会員は、廃校の活用や SNS を活用した情報発信の方法に魅力を感じていたが、廃校を活用してくれるような人材確保が課題であるという意見も出ていた。

３　牛乳・乳製品利用料理講習会

７月 19 日に、いいやま女性センター未来にて開催した。プリンなど計４品料理し、「簡単にできた。また家でも作る。」といった声もあがっていた。

■今後の課題と対応

会員が興味を示す周知の方法や活動内容を検討し、支部活動への出席会員数増加を促進しながらより会員同士の交流を強めていきたい。

（地域係　棚橋）

農業と生活の知識・技術の習得
（新規マイスターの育成）

■活動の背景と目的

農村生活マイスターの活性化のため、当センターでは新規会員の確保・育成に取り組んでいる。令和５年度は管内の１名の認定を支援した。

■活動の取組と成果

１　当センターでの取り組み

農村生活マイスターの支部会員から候補として挙がった人に対して、支部長や会員とともに声掛けや、農村生活マイスターについての説明を行い、中野市から１名、新規マイスター養成研修に推薦した。

２　長野県農村生活マイスター事前研修

令和５年度長野県農村生活マイスター事前研修の日程は下記のとおり。

回	期日	内容（抜粋）
1	9/13	女性活躍とマイスターの役割
2	10/10	男女共同参画 ６次産業化
3	11/9	講演「地域再構築の中で自分、地域が変わる」 先輩マイスターの講演
4	12/15	レポート演習
5	1/23	グループ討論 女性がリードする長野県の食育の取組み
	3/21	認定証授与式

当センターでは、第４回のレポート研修において、レポート作成の助言等を行ったほか、グループ討論の議題に関係する情報の提供やアドバイス等をし、事前研修がスムーズに受けられるように支援した。

■今後の課題と対応

新規に認定された農村生活マイスターが支部に溶け込めるよう支援するとともに、今後も農村生活マイスターの支部活動を活発にするため、新規会員獲得を目指し、下高井支部・下水内支部それぞれで新規マイスターの掘り起こし等の活動を行っていく。　（地域係　飯塚）

農業と生活の知識・技術の習得
（女性農業者組織の自主的活動）

■活動の背景と目的

Nj☆北信は、北信から長野地域の女性農業者が気軽に繋がれるネットワーク形成のために結成したグループで、現在約 80 人が加入している。

■活動の取組と成果

１　マルシェへの参加

10 月７～８日に、奥志賀紅葉フェスタに出店した。曇天が続き総来客数は少なかったが、青果物（りんご、ぶどう等）や加工品（ジャム等）の出店が当グループのみだったこともあり、多くのお客さんが立ち寄っていた。参加者からは、来年も参加したいという声が多く聞かれた。

出店時の様子

２　NAGANO 農業女子交流会

県内農業女子の出会いと学びの場として、２月９日に交流会が開催された。４人のメンバーが参加し、地域での活動や自身の近況について話合いが行われた。また、参加者の農産物 PR 会から、販促方法を学んでいる様子だった。

３　情報交換会

農業者と繋がりたいキッチンカーなどお店の方々との情報交換会が、２月 15 日に開催された。農業女子のグループ説明や活動状況により、グループ外の方とも交流を深めた。

■今後の課題と対応

新規就農に向けて準備中の研修生や若手農業者を勧誘しながら、仲間づくりや交流促進を図っていきたい。

（地域係　棚橋）

［農村女性ネットワークたかやしろ］

■活動の背景と目的

農村女性ネットワークたかやしろは、農村生活の発展を目的に、中野市と山ノ内町の農村女性セミナー修了生の６グループ 22 名で郷土料理講習会等の活動を行っている。

■活動の取組と成果

１　さつまいも・落花生の栽培体験

料理教室で使用するさつまいもと落花生を、会員のほ場を借りて栽培した。秋に収穫したさつまいもと落花生は、冬に料理講習会で利用し、さつまいもは干し芋に、落花生はやしょうまとピーナツ味噌に加工した。

落花生収穫の様子

２　果樹講習会

中野市の会員のほ場で、秋と冬にりんご・もも等の管理についての講習会を実施した。

講習会では、ヨード・デンプン反応でりんごの熟度の確認や、実際にその時期の作業を行い、参加者からの関心も高く質問も多く出て、とても充実した講習会になった。

秋の講習会の様子

■今後の課題と対応

会員の高齢化から会員数の減少や活動の縮小の検討がされる状況になっているが、今後も地元の農産物を活かした料理講習会や果樹講習会等の活発な活動ができるよう支援していく。

（地域係　飯塚）

カイゼン手法の導入による労働生産性の向上

■活動の背景と目的

農業者が自らの課題に気づき、経営及び労働生産性の向上を図ることができるよう、カイゼン手法の導入を推進する。

■活動の取組と成果

１　実践農業者への指導

中野市のりんご農家を対象に、りんごの選果作業の効率化に向けた現状把握や聞き取りを実施した。選果機を導入することで選果作業のスピードは上がった。選果機導入後に見直せる部分を今後園主と共に検討していく。

りんご選果状況の聞き取りの様子

２　カイゼン手法の啓発推進

４月 25 日北信州農業道場生を対象に、11 月 30 日に青年クラブ農業者を対象にカイゼンの概要や事例について紹介した。カイゼンについて初めて知った方もおり、本人の意識変化の一助となった。

道場でのカイゼン事例紹介

■今後の課題と対応

カイゼンを着手してもらうために身近な整理整頓等、取り組みやすい内容の提案が必要である。カイゼンは終わりがないため、農業者に課題を自覚し継続してもらえるような意識醸成が必要。

（技術経営係　中澤）

社会参画の推進

［北信州農村女性のつどい］

■活動の背景と目的

北信州農村女性のつどいは、北信地域の農村女性団体による、活動事例や先進的な活動の共有、団体同士の交流を目的に開催している。

今年度は８月 23 日に第 21 回北信州農村女性のつどいを「飯山市文化交流館なちゅら」で開催した。

■活動の取組と成果

１　実行委員会

４月 14 日　第１回飯山市地区実行委員会
５月 15 日　第１回実行委員会
６月 14 日　第２回飯山市地区実行委員会
７月６日　　第２回実行委員会

北信６市町村の女性農業者団体代表者、農業委員、市町村担当者等で作る実行委員会では、開催に向けて、内容、役割分担等を決めていった。

２　北信州農村女性のつどい

今回のテーマは「雪国からの発進!!」とし、飯山市から農業で「発進」をしている人からの事例発表を行なった。

①　「I ターン移住者が感じた飯山での暮らしの本音」
　　飯山市　　佐々木　豪・理恵　ご夫妻

豪氏は岩手から移住し農業を始め、理恵氏（都会出身）と結婚し、２人で農業をしている。農作業は、やらなければならないことが多く、計画通りできないことが多々あった。近所の方が優しく、ありがたく暮らしている。

②　「知識０からの農業」
　　飯山市　　岡田　忠治　氏

東京のアパレル系の会社で営業をしていて、飯山市にＵターンし農業を始めたが、農業に関する知識はゼロだった。独自のマーケティングや営業活動で販路開拓を行っている。栽培品目もケールやビーツと他の人が栽培していいないものを選択している。

③　「豪雪地での果樹栽培」
　　飯山市　　木原　翼　氏

10 年 20 年 30 年先の計画を作成し、その計画達成に向かっていく。農業を自分自身の農業でなく地区の農業としてとらえ、さらに他の産業とも連携をとる地区全体の構想を持ち、その実現を目指している。

④　「　里山で生きていく　」
飯山市　　水野　尚哉　氏

自分で作る米作りに自信を持っている。一部水田のオーナー制に取組み、オーナーには春夏秋と３回飯山に来るように仕向けている。そして、冬の雪深い飯山にも必ず来て、楽しんでもらうようにしている。飯山が大好き。

事例発表は、どの話も好評で６年後の次回飯山市開催時に同じ人から、その後どうなったかを聞きたいという声もあった。

農村女性のつどいでのフリーマーケット

コロナ禍のため開催できなかったフリーマーケットも久しぶりに行われ、「笹ずし」「アップルパイ」「丸ナスおやき」などが販売された。また、参加者の交流も久しぶりで、お互いの近況等の情報交換も行なわれた。

■今後の課題と対応

来年度は木島村での開催になるが、新たな視点でのつどいの開催を支援していく。

［飯山市農村女性団体連絡会］

■活動の背景と目的

飯山市農村女性団体連絡会は「第５期いいやま農村女性夢プラン（令和２～６年度）」の推進のため、関係３団体（芽ぶきの会、ふれあい市の会、農村女性マイスター協会）が連携して活動を行っている。

■活動の取組と成果

１　女性飯山市議会議員との懇談会

10 月 24 日に飯山市の女性市議会議員との懇談会を行った。任期１年目の議員としての活動内容をお聞きするとともに、今後の農地の活用について検討した。

女性市会議員との懇談会

２　かあちゃんの軽トラ市

飯山地区農業再生センターと共催で第３回となる「かあちゃんの軽トラ市」を開催した。11 月 12 日飯山市「雪と寺の町シンボル広場」に軽トラ等６台が集結し、ふれあい市の会を中心に秋野菜、手作りこんにゃく、笹ずしを販売し、消費者との交流ができ好評だった。

かあちゃんの軽トラ市

■今後の課題と対応

年齢を重ねることにより、活動が少なくなっていくが、無理のないよう活動を続けていく。

（地域係　松盛）